

## 文 献

- 秋田昌寛・清水健一・宇野嘉伯・青木勝宏・風岡 修・酒井 豊・楠田 隆・西川順二・楡井 久 (2001) 印西市浦部地区での地質汚染の機構解明調査事例. 第11回環境地質学シンポジウム論文集, 日本地質学会環境地質研究委員会, p. 39-44.
- 青木かおり・入野智久・大場忠道 (2008) 鹿島沖海底コア MD01-2421 の後期更新世テフラ層序. 第四紀研究, vol. 47, p. 391-407.
- 青木 滋・柴崎達雄 (1966) 海生“沖積層”の層相と細分問題について. 第四紀研究, vol. 5, p. 113-120.
- Chiba, T., Sugihara, S., Matsushima, Y., Arai, Y. and Endo, K. (2016) Reconstruction of Holocene relative sea-level change and residual uplift in the Lake Inba area, Japan. *Palaeogeography Palaeoclimatology Palaeoecology*, vol. 441, p. 982-996.
- 千葉県防災危機管理部 (2013) 東日本大震災の記録. 千葉県防災危機管理部, 378p.
- 千葉県地質環境インフォメーションバンク (2018) 地質柱状図. ちば情報マップ, <http://map.pref.chiba.lg.jp>, 2018.1.16 閲覧.
- 千葉県地震対策推進委員会 (1989) 昭和62年(1987年)千葉県東方沖地震—災害記録—. 336p.
- 千葉県開発局 (1969) 京葉工業地帯の地盤. 215p.
- 千葉県環境研究センター (2011a) 平成23(2011)年東北地方太平洋沖地震による東京湾岸埋立地での液状化—流動化被害(第1報)(2011年3月18日公表). 千葉県環境研究センター調査研究報告, 第G-8号, p. 1-1-1-8.
- 千葉県環境研究センター (2011b) 千葉県内の液状化—流動化現象とその被害の概要及び詳細分布調査結果(第4報): 浦安地区でみられた液状化—流動化現象の詳細分布・地震のゆれ方と液状化—流動化現象との関係・千葉市美浜区での人工地層および沖積層の概略的な3次元分布と液状化—流動化現象の分布の概要(2011年12月28日公表). 千葉県環境研究センター調査研究報告, 第G-8号, p. 4-1-4-69.
- 千葉県葛南開発工事事務所 (1967) 京葉港の地盤. 146p.
- 千葉県企画部水政課・千葉県公害研究所地盤沈下研究室 (1979) 地下水適正利用量調査報告書—千葉県東葛地区—. 45p.
- 千葉県立中央博物館 (1992) 地学資料下総層群鍵層集(1991年版). 千葉県立中央博物館, 162p.
- Clifton, H. E. and Thompson, J. K. (1978) *Macaronichnus segregatis*: A feeding structure of shallow marine polychaetes. *Journal of Sedimentary Petrology*, vol. 48, p. 1293-1302.
- 土木研究所 (2018) KuniJiban. <http://www.kunijiban.pwri.go.jp>, 2018.1.16 閲覧.
- 遠藤邦彦・関本勝久・高野 司・鈴木正章・平井幸弘 (1983) 関東平野の沖積層. アーバンクボタ, no. 21, p. 26-43.
- 遠藤邦彦・小杉正人・菱田 量 (1988) 関東平野の沖積層とその基底地形. 日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要, no.23, p. 37-48.
- 復興局建築部 (1929) 東京及横浜地質調査報告. 144p.
- 市原 実・市原優子 (1971) 大阪層群の海成粘土と淡水粘土について. 竹原平一教授記念論文集, p. 173-181.
- 五十嵐八枝子 (2009) 北西太平洋・鹿島沖コア MD01-2421 の MIS 6 以降の花粉記録: 陸域資料との対比. 地質学雑誌, vol. 115, p. 357-366.
- Igarashi, Y. and Oba, T. (2006) Fluctuations in the East Asian monsoon over the last 144ka in the northwest Pacific based on a high-resolution pollen analysis of IMAGES core MD01-2421. *Quaternary Science Reviews*, vol. 25, p. 1447-1459.
- 石綿しげ子 (2004) 東京湾北部沿岸地域の沖積層と堆積環境. 第四紀研究, vol. 43, p. 297-310.
- 岩村里美・升本眞二・塩野清治 (2012) 野外調査データにもとづいて地質構造の論理モデルを決定するアルゴリズム—地層の接触面の性質—. 情報地質, vol.23, no.1, p. 3-16.
- 井関弘太郎 (1983) 沖積平野. 東京大学出版会, 145p.
- 香川 淳・古野邦夫・楡井 久 (1997) 下総台地における雨水の涵養と宙水地下水位変動. 第7回環境地質学シンポジウム論文集, 日本地質学会環境地質研究委員会, p. 189-194.
- 環境庁水環境部土壌環境課地下水・地盤環境室 (1984) 地下水汚染実態調査結果(昭和57-58年度)(CD-ROM).
- 関東地方知事会関東地方環境対策推進本部地盤沈下部会 (2010) 関東地下水盆の地下水位分布調査報告書. 68p.
- 関東地区地盤沈下調査測量協議会 (2012) 関東地域累積地盤沈下量図(平成10年1月~平成20年1月1日). 関東地区地盤沈下調査測量協議会.
- 関東地区地盤沈下調査測量協議会 (2017) 関東地域地盤沈下量図(平成27年1月~平成28年1月1日). 関東地区地盤沈下調査測量協議会.
- 関東ローム研究グループ (1956) 関東ロームの諸問題. 地質学雑誌, vol. 62, p. 302-316.
- 加藤晶子・風岡 修・楠田 隆・吉田 剛・古野邦雄・香川 淳・酒井 豊・佐藤賢司・山本真理 (2012) 千葉市美浜区周辺の沖積層の3次元分布に関する研究. 全国環境研会誌, vol. 37, no. 4, p. 11-17.
- 河井興三 (1961) 南関東ガス田地帯についての鉱床地質学的研究. 石油技術協会誌, vol. 26, p. 212-266.
- 風岡 修 (2003) 液状化・流動化の地層断面. アーバンクボタ, no. 40, p. 5-13.
- 風岡 修 (2011) 人工地層のでき方と液状化—流動化被害

- 1987年千葉県東方沖地震での被害との比較も含めて—  
シンポジウム「人工改変地と東日本大震災」資料集。地質汚染—医療地質—社会地質学会, p. 1-21.
- 風岡 修・楠田 隆・香村一夫・楡井 久・佐藤賢司・原 雄・古野邦雄・香川 淳・森崎正昭 (1994) 液状化—流動化のメカニズムとその実態。日本地質学会第101年総会・討論会 講演要旨, p. 125-126.
- 風岡 修・佐藤光男・楠田 隆・香村一夫・風戸孝之・香川 淳・森崎正昭・佐藤賢司・古野邦雄・酒井 豊・加藤晶子・楡井 久 (2000) 局所的な表層地質の違いが液状化—流動化に与える影響。第10回環境地質学シンポジウム論文集, 日本地質学会環境地質研究委員会, p.33-38.
- 風岡 修・古野邦雄・香川 淳・楠田 隆・酒井 豊・吉田剛・加藤晶子・山本真理・堀井義久・麻生 等・佐藤光男・高梨祐司 (2012) 2011年東北地方太平洋沖地震での東京湾岸埋立地における液状化—流動化現象 —千葉県美浜区南東部での液状化—流動化層準—。第22回環境地質学シンポジウム論文集, 地質汚染—医療地質—社会地質学会, p. 161-166.
- 風岡 修・吉田 剛・藤ヶ崎 稔・清水健一・長根山皓介・鈴木博也・楠田 隆・酒井 豊・楡井 久 (2013) 下総台地中央部の更新統の透水層構造と地下水質の概要 —印西市～八千代市について—。第23回環境地質学シンポジウム論文集, 地質汚染—医療地質—社会地質学会, p. 69-74.
- 風岡 修・亀山 瞬・森崎正昭・重野聖之・鈴木喜之・香川 淳・吉田 剛・木村満男・酒井 豊・小倉孝之 (2014) 2011年東北地方太平洋沖地震時に発生した沈下を伴う液状化—流動化現象発生地の人工地質の特徴 —東京湾岸埋立地千葉県磯辺地区での地質調査から—。第24回環境地質学シンポジウム論文集, 地質汚染—医療地質—社会地質学会, p. 9-14.
- 風岡 修・佐藤光男・堀井義久・荻津 達・酒井 豊・香川 淳・古野邦雄・楠田 隆・吉田 剛 (2015a) 東京湾岸埋立地の人工地層中における2011年東北地方太平洋沖地震時の液状化—流動化部分と非液状化—流動化部分 —オールコアの剥ぎ取り面とX線CT画像から—。第25回環境地質学シンポジウム論文集, 地質汚染—医療地質—社会地質学会, p. 11-14.
- 風岡 修・吉田 剛・荻津 達・香川 淳・藤ヶ崎稔・古野邦雄・酒井 豊・楡井 久 (2015b) 淡水成の泥層からなる難透水層中の流体の通り道 —房総半島北部の下総台地での例—。第25回環境地質学シンポジウム論文集, 地質汚染—医療地質—社会地質学会, p. 45-48.
- 風岡 修・宇澤政晃・檜山知代・荻津 達・八武崎寿史・香川 淳・吉田 剛・加藤晶子・本田恵理・小倉孝之 (2016) 東京湾北部の埋立地における人工地層～沖積層の層序と2011年東北地方太平洋沖地震時の液状化—流動化現象：船橋市日の出町・市川市行徳での調査から。第26回環境地質学シンポジウム論文集, 社会地質学会, p. 35-38.
- 風岡 修・潮崎翔一・八武崎寿史・香川 淳・荻津 達・吉田 剛・加藤晶子 (2017a) 東京湾北部の埋立地における層序と2011年東北地方太平洋沖地震時の液状化—流動化の層準：千葉県浜田川緑地での調査から。第27回環境地質学シンポジウム論文集, 社会地質学会, p. 131-134.
- 風岡 修・宮地良典・潮崎翔一・小松原純子・香川 淳・吉田 剛・荻津 達・八武崎寿史・加藤晶子・酒井 豊・古野邦雄・楠田 隆・中澤 努・楡井 久 (2017b) 東京湾岸埋立地北部の沖積層の岩相層序と人工地層中の液状化—流動化部分：市川市～千葉市における調査から。第27回環境地質学シンポジウム論文集, 社会地質学会, p. 135-138.
- 風岡 修・宇澤政晃・香川 淳・吉田 剛・荻津 達・八武崎寿史・潮崎翔一・中澤 努 (2017c) 千葉県北西部における人工地層“沖積層”の基準ボーリング調査：GS-CB-8 コアの層相と地層物性層序。地質調査総合センター速報, no. 74, p. 19-30.
- 菊地隆男 (1972) 成田層産白斑状化石生痕とその古地理学的意義。地質学雑誌, vol. 78, p. 137-144.
- 菊地隆男 (1974) 関東地方の第四紀地殻変動の性格。垣見俊弘・鈴木尉元編「関東地方の地震と地殻変動」, ラティス, p. 129-146.
- 菊地隆男 (1981) 常総粘土層の堆積環境。地質学論集, no. 20, p. 129-145.
- 木村克己・石原与四郎・宮地良典・中島 礼・中西利典・中山俊雄・八戸昭一 (2006) 東京低地から仲川低地に分布する沖積層のシーケンス層序と層序の再検討。地質学論集, no. 56, p. 1-18.
- 国土地理院 (2018) 地理院地図。 <http://maps.gsi.go.jp>, 2018.1.16 閲覧。
- 国土交通省関東地方整備局・公益法人地盤工学会 (2011) 東北地方太平洋沖地震による関東地方の地盤液状化現象の実態解明報告書。65p.
- Kobayashi, K., Minagawa, K. and Machida, M. (1968) The Ontake pumice-fall deposit Pm-1 as a Late Pleistocene time-marker in central Japan. *Jour. Fac. Sci. Shinshu Univ.*, vol. 3, p. 171-198.
- 小玉喜三郎・堀口万吉・鈴木尉元・三梨 昂 (1981) 更新世後期における関東平野の地塊状造盆地運動。地質学論集, no. 20, p. 113-128.
- 小松原純子・宮地良典・中澤 努・中島 礼・風岡 修・吉田 剛 (2017) 千葉県東京湾岸部で掘削した沖積層基準ボーリング試料の対比と層序。地質調査総合センター速報, no. 74, p. 31-37.
- 小松原 琢・中澤 努・兼子尚知 (2004) 木更津地域の地質。地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅), 産総研地質調査総合センター, 64p.
- 古籆田喜久雄・若松加寿江 (1988) 千葉県東方沖地震による液状化現象とその被害。土と基礎, vol. 36, no. 12, p. 19-24.

- 近藤康生 (1991) 千葉県松戸市栗山の地下から産した後期更新世の外洋性浅海砂底貝化石群 — 特に最終間氷期における古東京湾の海況復元に関連して —. 千葉中央博自然誌研究報告, vol. 1, no. 2, p. 1-8.
- 久保純子 (2007) 「常総の内海」香取平野の地形と歴史時代における環境変遷. 茨城県立歴史館編, 中世東国の内海世界 — 霞ヶ浦・筑波山・利根川 —, p. 39-64.
- 楠田 隆 (1988) 千葉県東方沖地震にみられた液状化現象について. 日本地質学会関東支部シンポジウム「千葉県東方沖地震」講演要旨集, p. 31-34.
- 町田 洋 (1971) 南関東のテフロクロノロジー (I) — 下末吉期以降のテフラの起源および層序と年代について —. 第四紀研究, vol. 10, p. 1-20.
- 町田 洋・新井房夫 (2003) 新編 火山灰アトラス — 日本列島とその周辺. 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・松島義章 (1976) 下末吉海進初期の古環境に関する若干の資料. 第四紀研究, vol. 15, p. 136-140.
- 町田 洋・新井房夫・村田明美・袴田和夫 (1974) 南関東における第四紀中期のテフラの対比とそれに基づく編年. 地学雑誌, vol. 83, p. 302-338.
- 横山次郎 (1931) 関東南部の洪積層. 小川博士還暦記念論文集, 307-382.
- 増田富士雄・中里裕臣 (1988) 堆積相からみた鹿島—房総隆起帯の運動像. 月刊地球, vol. 10, p. 616-623.
- Masumoto, S., Raghavan, V., Yonezawa, G., Nemoto, T., and Shiono, K. (2004) Construction and visualization of a three dimensional geologic model using GRASS GIS. *Transaction in GIS*, vol.8, no.2, p. 211-223.
- 松田盤余 (1993) 東京湾とその周辺の沖積層. 貝塚夾平編, 東京湾の地形・地質と水, 築地書館, p. 67-109.
- 南関東地方地盤沈下調査会 (1974) 南関東地域地盤沈下調査対策誌. 南関東地方地盤沈下調査会, 東京, 551p.
- 三谷 豊・下総台地研究グループ (1997) 下総台地北部における更新世中期以降の地殻変動史. 地球科学, vol. 51, p. 29-39.
- 三土知芳 (1934) 7万5千分の1地質図幅「成田」および同説明書. 地質調査所, 17p.
- 三土知芳 (1935) 7万5千分の1地質図幅「千葉」および同説明書. 地質調査所, 25p.
- 三土知芳 (1937) 7万5千分の1地質図幅「茂原」. 地質調査所.
- 三梨 昂 (1974) 南関東地区の構造発達史. 垣見俊弘・鈴木尉元編, 関東地方の地震と地殻変動, ラティス, p. 31-50.
- 宮地良典・小松原純子・中島 礼 (2015) 千葉県北西部の沖積層基準ボーリング調査. 地質調査総合センター速報, no. 68, p. 61-71.
- 宮地良典・小松原純子・中島 礼 (2016) 千葉県北西部の沖積層基準ボーリング調査 (平成27年度掘削試料とその対比). 地質調査総合センター速報, no. 71, p. 79-90.
- 榎倉克幹・大野勝次 (1993) 第3章 地下資源の開発 V 地下水. 日本の地質学100年, 日本地質学会, p. 419-430.
- 村越道弘・飯高次夫・篠田正彦・秋田正寛・清水健一・田中良郎・青木勝宏・宇野嘉伯・風岡 修・酒井 豊・楠田 隆・八槇明子・西川順二・庄山公透・小倉孝之・楡井 久 (2008) 印西浦部地区での地下水汚染の浄化対策事例. 第17回環境地質学シンポジウム論文集, 地質汚染—医療地質—社会地質学会, p. 175-180.
- 中里裕臣 (1993) 下総層群清川層と上岩橋層の層序学的関係. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告, vol. 2, p. 115-124.
- 中里裕臣 (1997) 下総層群の年代. 坂上澄夫教授退官記念論文集, p. 127-141.
- 中里裕臣・佐藤弘幸 (1988) 下総層群上泉層中のKm2テフラ. 地質学雑誌, vol. 94, p. 793-796.
- 中里裕臣・佐藤弘幸 (2001) 下総層群の年代と“鹿島”隆起帯の運動. 第四紀研究, vol. 40, p. 251-257.
- 中里裕臣・佐藤弘幸 (2016) 千葉県北部地域の下総層群の層序. 地質調査総合センター速報, no. 71, p. 55-78.
- 中里裕臣・坂田健太郎・中澤 努 (2016) 大磯丘陵の中・後期更新世テフラのカタログの高度化と下総層群の編年への適用. 日本地質学会第123年学術大会講演要旨, 36.
- 中澤 努・中里裕臣 (2007) 地質ニュース, no. 634, p. 50-59.
- 中澤 努・中島 礼・植木岳雪・田辺 晋・大嶋秀明・堀内誠示 (2006) 大宮台地の地下に分布する更新統下総層群木下層のシーケンス層序学的研究. 地質学雑誌, vol. 112, p. 349-368.
- 中澤 努・中里裕臣・大嶋秀明・堀内誠示 (2009) 関東平野中央部における上総—下総層群境界: 越谷GS-KS-1コアでのMIS12層準の特定. 地質学雑誌, vol. 115, p. 49-63.
- 中澤 努・田辺 晋 (2011) 野田地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅), 産総研地質調査総合センター, 72p.
- 中澤 努・長 郁夫・納谷友規・小松原純子・宮地良典 (2014) 首都圏の基準ボーリング調査及び常時微動測定. 産業技術総合研究所地質調査総合センター速報, no. 66, p. 207-228.
- 中澤 努・坂田健太郎・中里裕臣 (2015) 成田・印西における更新統下総層群木下層の堆積相と物性: GS-NT-1及びGS-IZ-1ボーリング調査概要. 地質調査総合センター速報, no. 68, p. 39-51.
- 中澤 努・坂田健太郎・中里裕臣 (2016) 千葉県富里市GS-TM-1コアにみられる更新統下総層群木下層の堆積相と物性. 地質調査総合センター速報, no. 71, p. 43-53.
- Nakazawa, T., Sakata K., Hongo, M. and Nakazato, H. (2017) Transition from incised valley to barrier island systems during MIS 5e in the northern Chiba area, Kanto Plain, central Japan. *Quaternary International*, vol. 456, p. 85-101.
- 奈良正和 (1994) “ヒメスナホリムシの生痕化石”の形成者は

- 何か? : 生痕化石 *Macaronichnus segregatis* の形成メカニズム. 化石, no. 56, p. 9–20.
- 成田市 (1980) 成田市史 通史 原始古代編.
- 成田層古環境団体研究グループ (1996) 印旛沼捷水路付近および成田市西北部の下総層群 — 上岩橋層の堆積環境と木下層の埋没谷 —. 地団研専報, no. 45, p. 42–67.
- 納谷友規・坂田健太郎・中澤 努 (2016) 千葉市の地下に分布する下総層群の層序: GS-CB-1 及び GS-CB-5 コアの調査概要. 地質調査総合センター速報, no. 71, p. 91–99.
- 納谷友規・坂田健太郎・中澤 努 (2017) 松戸市の地下に分布する下総層群の層序: GS-MD-1 コアの調査概要. 地質調査総合センター速報, no. 74, p. 39–46.
- 楡井 久 (1978) 千葉県における地盤沈下に関する研究とそのあり方 — 地下水公害防止と地下流体資源有効利用の 21 世紀へむけて —. 千葉県公害研究所研究報告, 千葉県公害研究所, vol. 10, p. 145–162.
- 楡井 久 (1988) 関東前面弧盆地 — 関東地下水盆の形成史 —. アーバンクボタ, no. 27, p. 36–45.
- 楡井 久 (1997) 第 4 章 第 2 節 河川. 千葉県の自然誌 本編 2, 財団法人千葉県史料研究財団, p. 463–492
- 楡井 久 (2003) 第 3 者による地質汚染審査の重要な役割. 第 13 回環境地質学シンポジウム論文集, 日本地質学会環境地質研究委員会, p. 161–166.
- Nirei, H., Kusuda, T., Suzuki, K., Kamura, K., Furuno, K., Hara, Y., Satoh, K. and Kazaoka, O. (1990) The 1987 East off Chiba Prefecture Earthquake and its Hazard. *Mem. Geol. Soc. Japan*, no. 35, p. 31–46.
- 楡井 久・佐藤賢司・鈴木喜計・古野邦雄 (1994a) 環境における地質単元. 地質学雑誌, vol. 100, p. 425–435.
- 楡井 久・佐藤賢司・古野邦夫・森崎正昭・香川 淳・佐藤徳樹・鈴木喜計・手塚裕樹・伊藤哲也 (1994b) 多層集水井戸による地質汚染の深層化. 第 4 回環境地質学シンポジウム論文集, 日本地質学会環境地質研究委員会, p. 31–36.
- 楡井 久・村田順一・宇澤政晃・古野邦雄・香川 淳・佐藤賢司・森崎正昭 (1995) 多層集水井戸による深層地質汚染と井戸修復. 第 5 回環境地質学シンポジウム論文集, 日本地質学会環境地質研究委員会, p. 205–208.
- Nirei, H., Furuno, K., Kazaoka, O., Marker, B. and Sakunas, J. (2012) Classification of man made strata for assessment of geopotlution. *Episodes*, vol. 35, p. 333–336.
- 野々垣 進・升本眞二・塩野清治 (2008) 3 次 B- スプラインを用いた地層境界面の推定. 情報地質, vol. 19, no. 2, p. 61–77.
- 農業環境技術研究所 (2018) 歴史的農業環境閲覧システム. <http://habs.dc.affrc.go.jp>, 2018.1.16 閲覧.
- NPO 日本地質汚染審査機構 (2003) 豊洲地質汚染浄化対策効果審査報告書. NPO 日本地質汚染審査機構, 48p.
- Oba, T., Irino, T., Yamamoto, M., Murayama, M., Takamura, A. and Aoki, K. (2006) Paleooceanographic change off central Japan since the last 144,000 years based on high-resolution oxygen and carbon isotope records. *Global and Planetary Change*, vol. 53, p. 5–20.
- 岡崎浩子・黒住耐二 (2008) 国指定天然記念物「木下貝層」(更新統下総層群木下層)の地質学的意義. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告, vol. 10, p. 1–13.
- 岡崎浩子・増田富士雄 (1992) 古東京湾地域の堆積システム. 地質学雑誌, vol. 98, p. 235–258.
- 岡崎浩子・中里裕臣・黒住耐二 (2016) 氷期・間氷期変動と古東京湾. 地学雑誌, vol. 125, p. N1–N11.
- 坂倉勝彦 (1935) 千葉県小櫃川流域の層序(その 2). 地質学雑誌, vol. 42, 753–784.
- 佐々木 康 (1988) 千葉県東方沖の地震 (62. 12. 17) の調査速報. 土木技術資料, vol. 30, no. 1, p. 47–55.
- 佐藤弘幸 (1993) 千葉県成東町 — 八日市場市周辺に分布する下総層群の層序. 千葉中央博自然誌研究報告. vol. 2, p. 99–113.
- 佐藤賢司・古野邦雄・原 雄・奥田庸雄・高梨祐司・楡井久 (1983) 下総台地における 6 価クロム地下水汚染機構. 地質学論集, no. 23, p. 105–113.
- Seike, K. (2009) Influence of beach morphodynamics on the distributions of the opheliid polychaete *Euzonus* sp. and its feeding burrows on a sandy beach: paleoecological and paleoenvironmental implications for the trace fossil *Macaronichnus segregatis*. *Palaios*, vol. 24, p. 799–808.
- 清水恵助 (1983) 東京港における埋立地について — 埋立地の地質学的考察 —. 地質学論集, no. 23, p. 141–154.
- 下総台地研究グループ (1984) 千葉県手賀沼周辺地域における木下層基底の形態と層相の関係. 地球科学, vol. 38, p. 226–234.
- 塩野清治・升本眞二・坂本正徳 (1998) 地層の 3 次元分布の特性と地質図作成アルゴリズム — 地質構造の論理モデル —. 情報地質, vol. 9, no. 3, p. 121–134.
- 塩野清治・山根裕之 (2009) 地質構造の論理モデルを表す 2 分木の読み方. 情報地質. vol. 20, no. 3, p. 151–167.
- 杉原重夫 (1970) 下総台地西部における地形の発達. 地理学評論, vol. 43, 703–718.
- 杉原重夫 (1980) 下総層群成田層の層序と基底地形. 明治大学人文科学研究所紀要, vol. 18, p. 1–41.
- 杉原重夫・新井房夫・町田 洋 (1978) 房総半島北部の中・上部更新統のテフロクロノロジー. 地質学雑誌, vol. 84, p. 583–600.
- 杉原重夫・黒住耐二・堀越正行 (2011) 印旛沼地域における古環境解明のための基礎調査. 環境史と人類 明治大学フロンティア「環境変遷史と人類活動に関する学際的研究」紀要, 5, p. 32–66.
- 高嶋恒太・高信勝巳・本田 崇・飯島章夫・石田真弓・佐藤賢司 (2003) 開析谷を有する下総台地での TCE 汚染分布と地下水汚染機構. 第 13 回環境地質学シンポジウム論文

- 集, 日本地質学会環境地質研究委員会, p. 61-66.
- 高嶋 洋・風岡 修・香川 淳・吉田 剛・酒井 豊・楡井 久 (2017) 千葉県北西部の地質構造と地質汚染の脆弱性(予察). 第27回環境地質学シンポジウム論文集, 社会地質学会, p. 31-34.
- 田辺 晋・石原園子・中島 礼・宮地良典・木村克己 (2006) 東京低地中央部の沖積層における中間砂層の形成機構. 地質学論集, no. 59, p. 35-52.
- 田辺 晋・中島 礼・内田昌男・柴田康行 (2012) 東京低地臨海部の沖積層にみられる湾口砂州の形成機構. 地質学雑誌, vol. 118, p. 1-19.
- 田中 武・楡井 久・秋田昌寛・清水健一・細谷 有・田口善彦・石井 亮・酒井 豊・風岡 修・楠田 隆・鈴木真人・加来文隆・西川順二 (2001) 有機塩素化合物により高濃度に汚染された軟弱地層の除去対策工例「高圧噴射置換浄化工法」. 第11回環境地質学シンポジウム論文集, 日本地質学会環境地質研究委員会, p. 45-50.
- 徳橋秀一・遠藤秀典 (1984) 姉崎地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅), 地質調査所, 136p.
- 徳永光一・石田智之・佐瀬 隆・井坂誠博 (1991) 火山灰土およびマサ土地盤における根系状孔隙の発達と透水性. 農業土木学会誌, vol. 59, p. 525-536.
- 東京都土木技術研究所 (1969) 東京都地盤地質図 (23区) — 東京都地質図集2—. 東京都土木技術研究所.
- 東京都港湾局 (2001) 新版東京港地盤図. 97p.
- 陶野郁夫・安田 進 (1988) 1987年千葉県東方沖地震で生じた液状化現象とその特徴. 基礎工, vol. 16, no. 5, p. 101-107.
- 上砂正一・佐藤賢司 (1995) 地質汚染調査と行政の取り組み. 日本地質学会環境地質研究委員会編「地質環境と地球環境シリーズ2 地質汚染の責任」, 東海大学出版会, p. 57-70.
- 植田房雄 (1930) 房総半島北部の地質 (摘要). 地質学雑誌, vol. 37, p. 250-253.
- 宇澤政晃・檜山知代・風岡 修・荻津 達・八武崎寿史・香川 淳・吉田 剛・加藤晶子・本田恵理・小倉孝之 (2016) 東京湾北部の埋立地における2011年東北地方太平洋沖地震時の液状化—流動化の層準: 市川市行徳・船橋市日の出の調査から. 第26回環境地質学シンポジウム論文集, 社会地質学会, p. 39-42.
- 宇澤政晃・檜山知代・風岡 修・潮崎翔一・香川 淳・荻津 達・八武崎寿史・吉田 剛・加藤晶子 (2017) 東京湾北部の埋立地における2011年東北地方太平洋沖地震時の液状化—流動化の層準: 千葉市浜田川緑地での調査から. 第27回環境地質学シンポジウム論文集, 社会地質学会, p. 113-116.
- 矢部長克 (1906) 東京附近の第三期及び洪積期層に付て. 地質学雑誌, vol. 13, p. 187-192.
- 山浜 裕・楠田 隆・風岡 修・香村一夫・楡井 久・澤地義雄・泉水菊夫 (2002) 下総台地での雨水浸透柵による地下水涵養実験について. 第12回環境地質学シンポジウム論文集, 日本地質学会環境地質研究委員会, p. 179-184.
- Yonezawa, G., Shiono, K. and Masumoto, S. (2002) Logical model of faulted geologic structures. *Terra Nostra*, vol. 4, p. 53-56.
- 米澤 剛・升本眞二・根本達也・坂本正徳・塩野清治 (2004) 拡張地質関数を用いた地質境界線の表示. 情報地質, vol. 15, no. 4, p. 193-206.
- 吉田 剛・風岡 修・藤ヶ崎 稔・長根山皓介・坂田健太郎・楡井 久 (2014) 千葉県北西部の水文地質単元の対比. 第24回環境地質学シンポジウム論文集, p. 31-32.
- 吉田 剛・風岡 修・楡井 久・楠田 隆・酒井 豊・古野邦雄・坂田健太郎 (2017) 千葉県北西部に広域に連続する難透水層 (YK-C1, YK-C2) の分布. 第27回環境地質学シンポジウム論文集, 社会地質学会, p. 125-130.
- 吉田 剛・栗原正憲・風岡 修・加藤晶子・楠田 隆・古野邦雄・香川 淳 (2012) 千葉県における東京湾岸の埋立地層・自然地層の地下水位と地下水中の塩化物イオン濃度について. 第22回環境地質学シンポジウム論文集, 83-86.

[URL1] 国土地理院 標高 API 最終確認日 2017/11/22  
<https://maps.gsi.go.jp/development/api.html>